

## (2) 保護者向けアンケート調査

### ①調査の概要

【対象】北九州市に所在する IT 関連教育機関に通学する学生の保護者（全 4,231 人）

【調査時期】平成 26 年 7 月 20 日発送、9 月 9 日まで回収

【方法】直接配布・回収

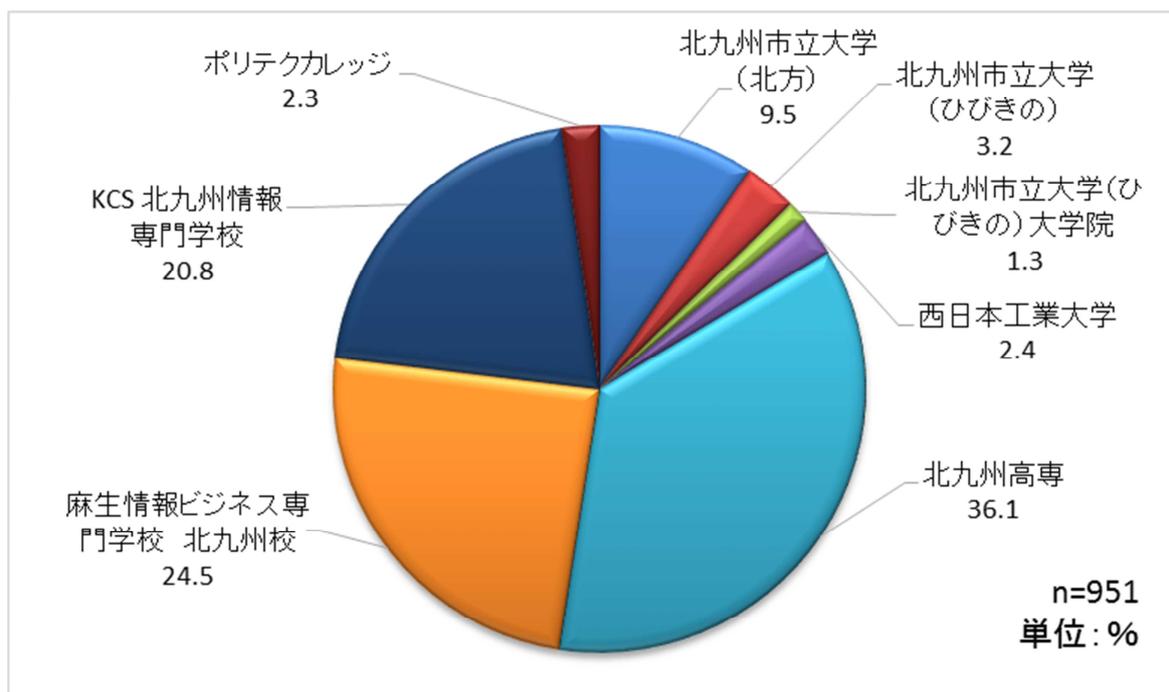
#### 【調査項目】

3. 回答者のお子様のプロフィール	
4. お子様の就職に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業後の進路への希望</li> <li>・ 仕事選択に期待すること</li> <li>・ 就職させたい企業の規模</li> <li>・ 働いてほしい地域</li> <li>・ お子様の地元 U ターンへの期待</li> <li>・ 就職活動支援で望むこと</li> <li>・ 学校や北九州市への要望</li> </ul>

（詳細は巻末資料「学生の就職に関する保護者の意識調査」—保護者向け調査票— 参照）

【回収者数】有効回答 951 人（回収率 22.5%）

回答者の教育機関別分布

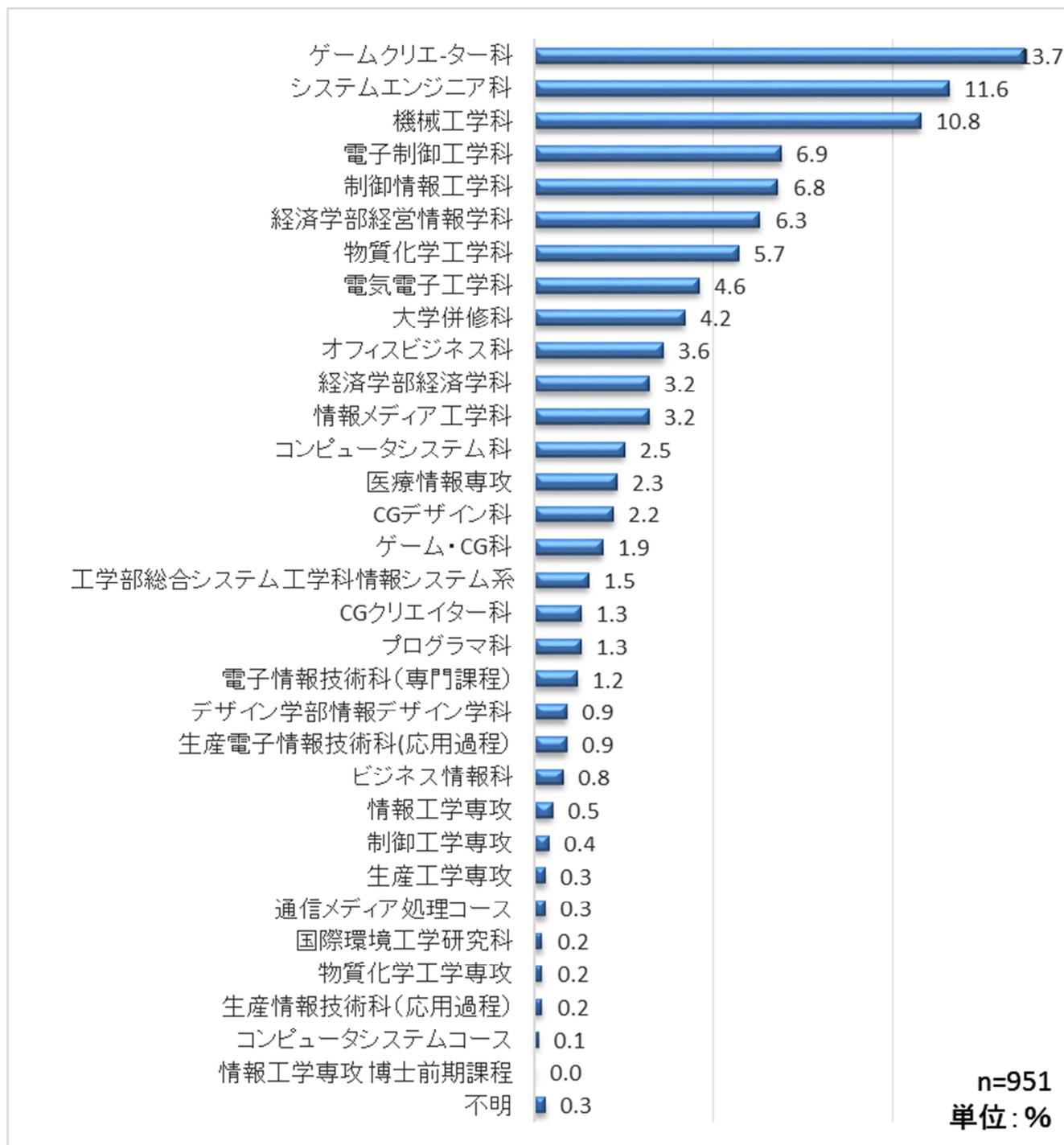


## ②調査結果の概要

### 1) 回答者のお子様プロフィール

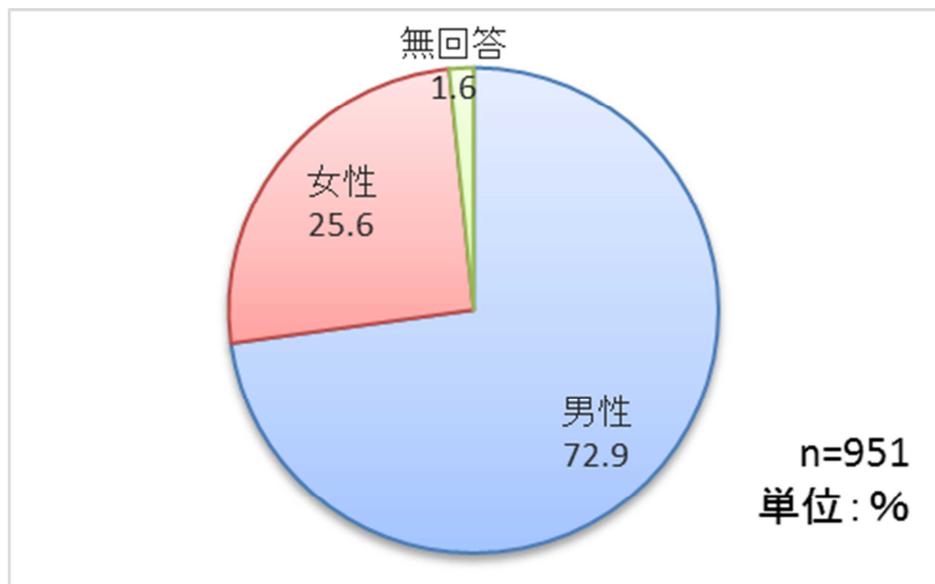
#### 1)-2 学部・学科

図表 4-27 学部・学科



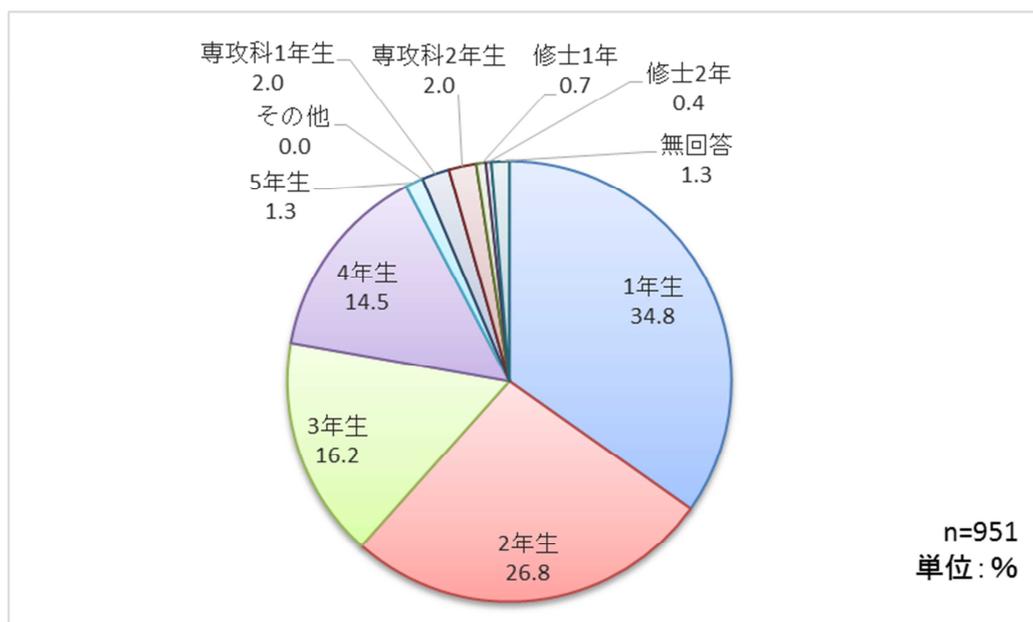
1)-2 性別

図表 4-28 性別



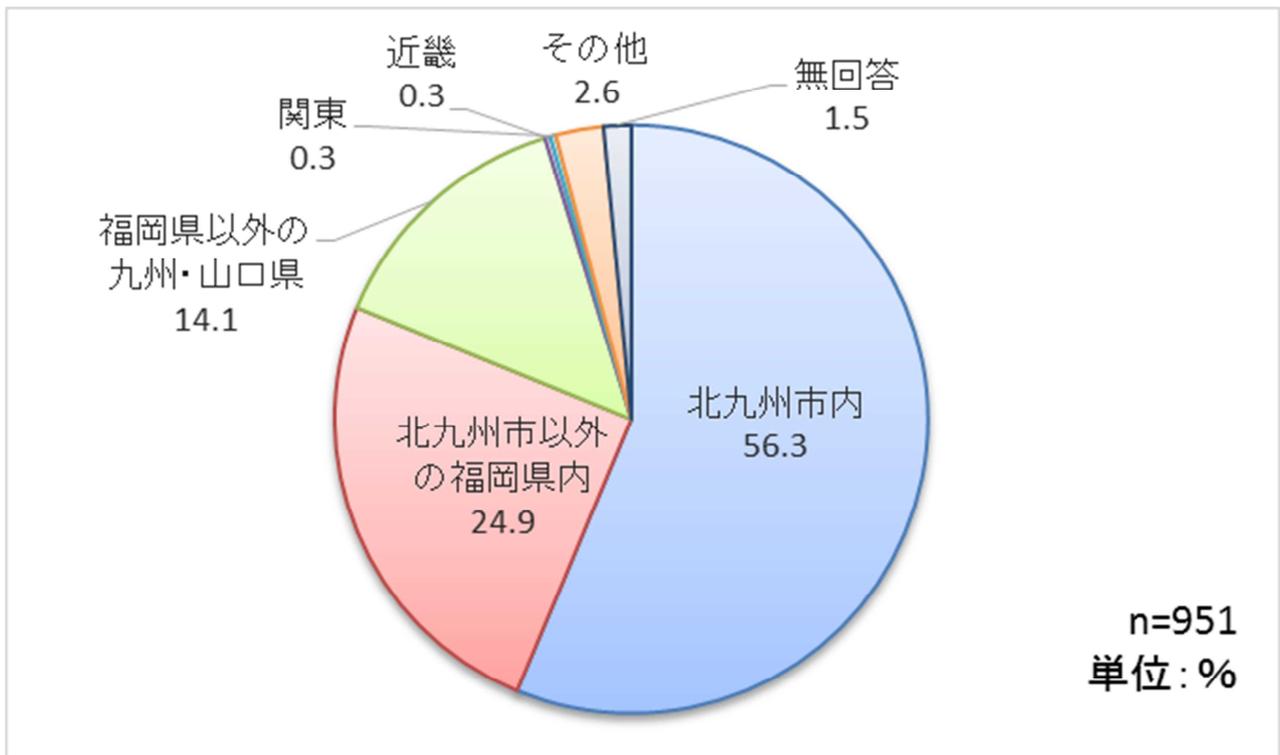
1)-3 学年

図表 4-29 学年



1)-4 出身地

図表 4-30 出身地

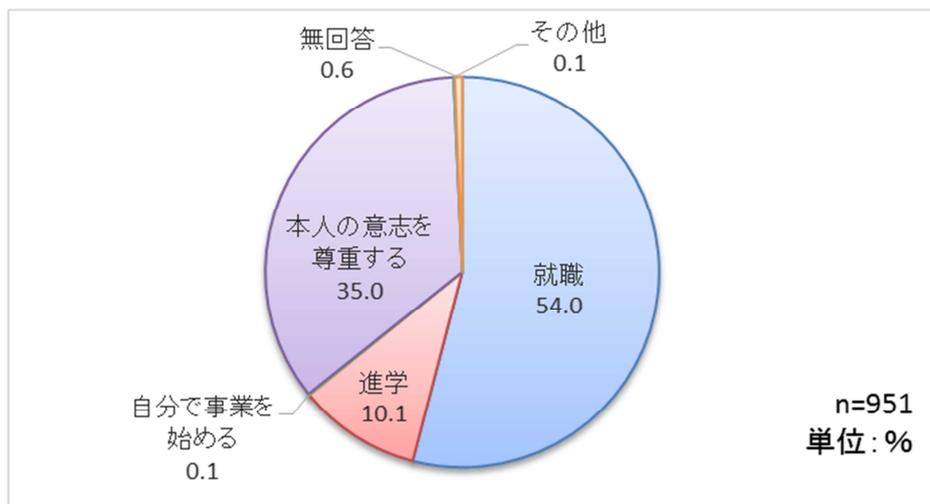


## 2) お子様の就職に関する意識

### 2)-1 卒業後の進路への希望

「就職を期待する」との回答が54%と最も多いが、「本人の意思を尊重する」との回答も35.0%あった。

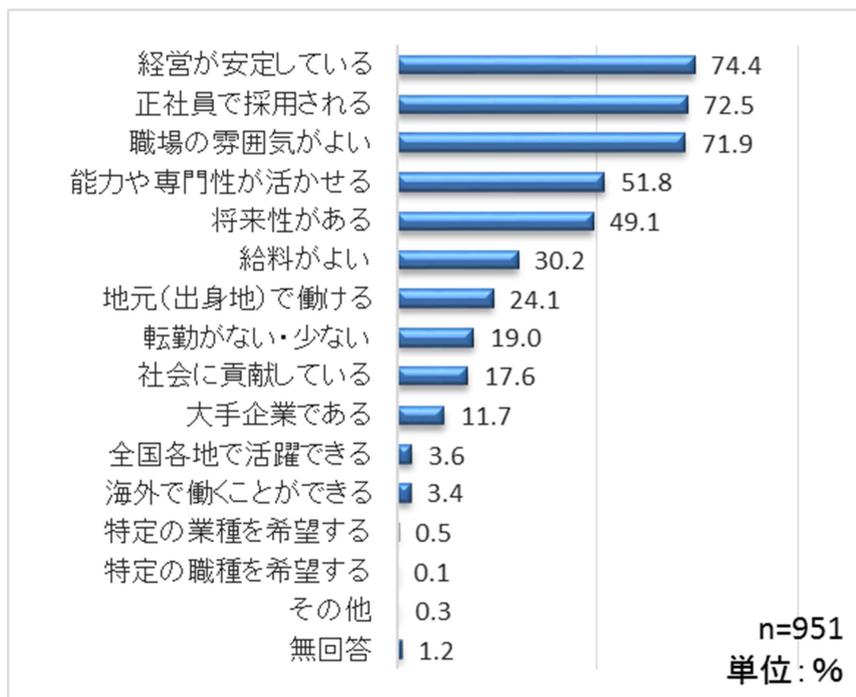
図表 4-31 卒業後の進路



### 2)-2 仕事選択に期待すること

「経営が安定している」「正社員で採用されること」「職場の雰囲気がよいこと」といった、生活基盤の安定を望む回答が70%以上で並んでいる。

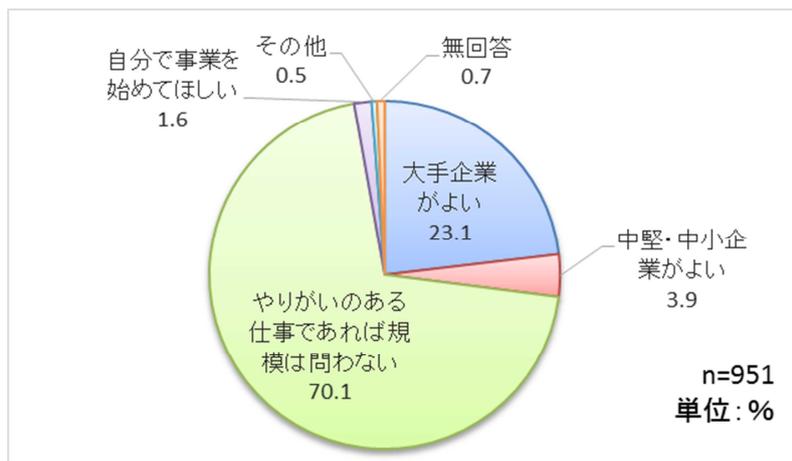
図表 4-32 仕事選択に期待すること（複数回答）



### 2)-3 就職させたい企業の規模

就職させたい企業の規模としては、「やりがいのある仕事であれば規模は問わない」が70.1%と最も多く、次いで、「大手企業が良い」23.1%となっている。

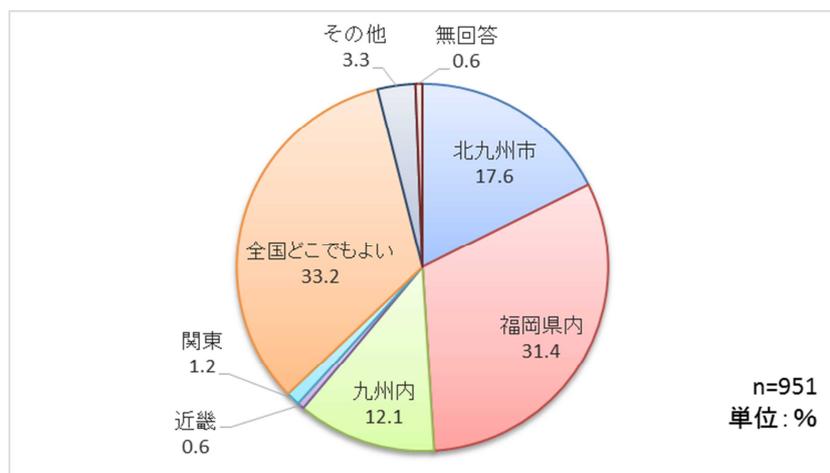
図表 4-33 就職させたい企業の規模



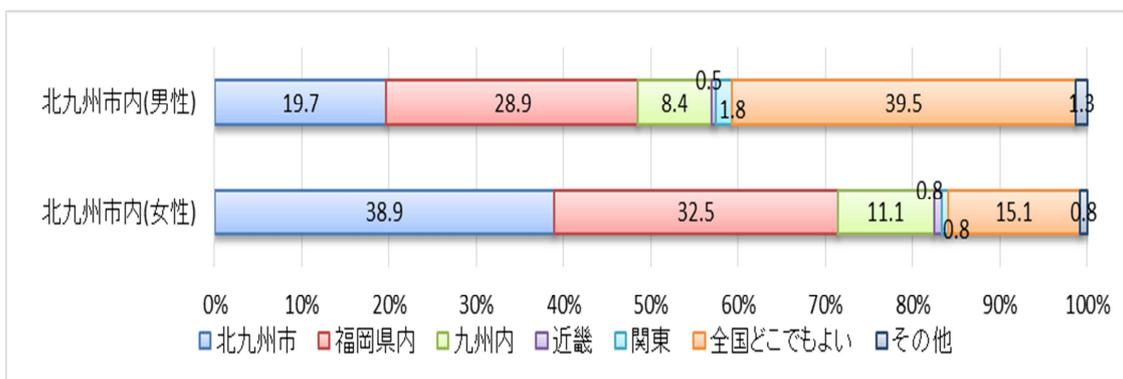
### 2)-4 働いてほしい地域

働いてほしい地域は、60%以上が九州内を希望しているが、「全国どこでもよい」との回答も33.2%あった。また、北九州市出身の男女別で働いてほしい地域をみると、女性の方が約2倍の割合で、北九州市での就職を望んでいる。

図表 4-34 働いてほしい地域



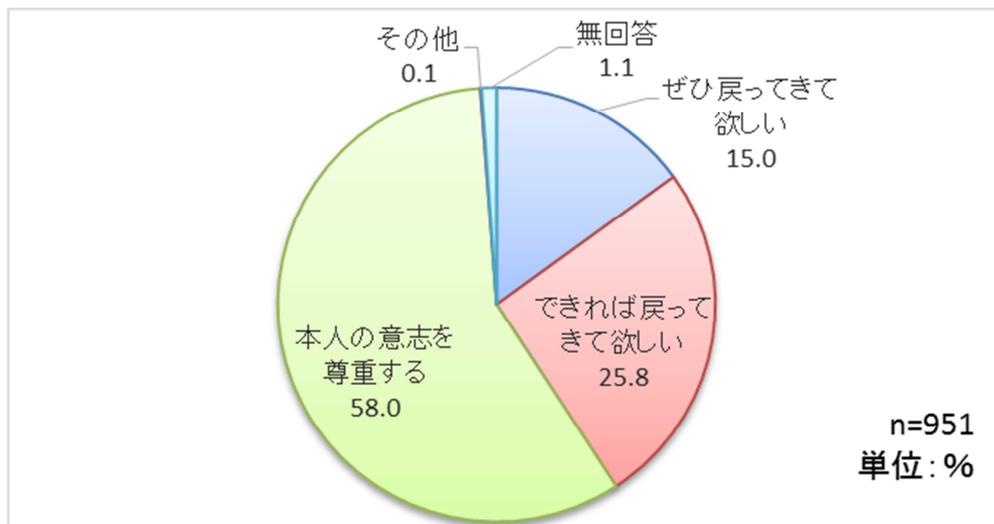
図表 4-35 男女別の働いてほしい地域



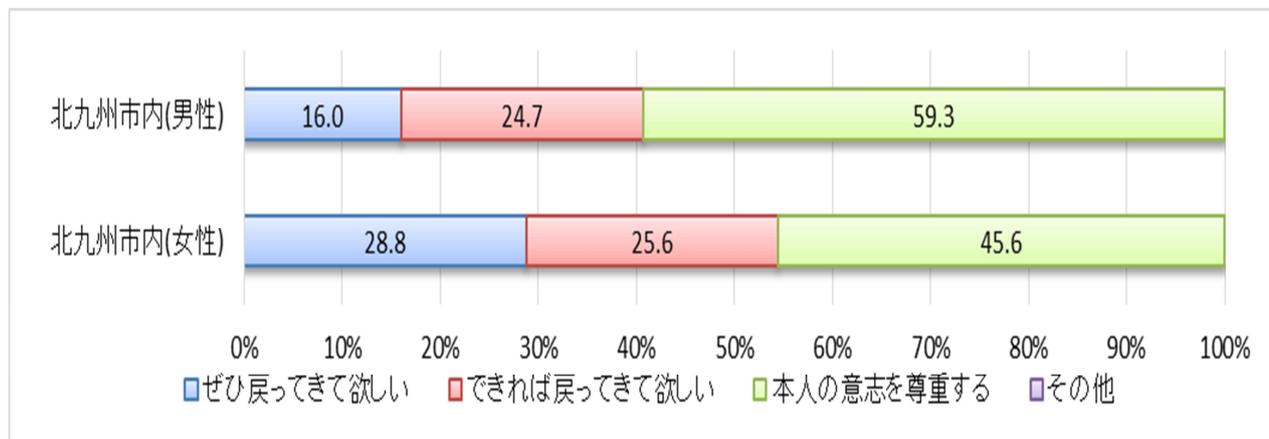
## 2)-5 お子様の地元Uターンへの期待

Uターンへの期待は、58.0%が「本人の意思を尊重する」としており、地元へのUターンを期待する回答を上回っている。また、北九州市出身の男女別で見ると、Uターンに期待しているのは、女性が男性より高い割合となっている。

図表 4-36 お子様の地元Uターンへの期待



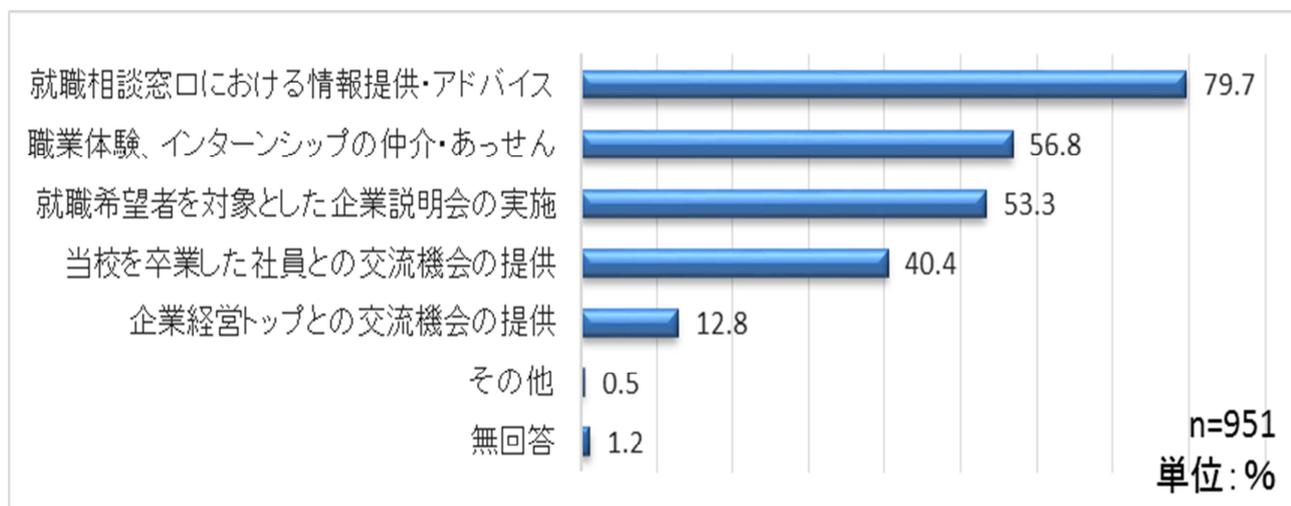
図表 4-37 男女別の地元Uターンへの期待



## 2)-6 就職活動支援で望むこと

就職活動支援では、79.1%が「就職相談窓口における情報提供・アドバイス」を望んでおり、次いで、「就職体験、インターンシップの仲介・あっせん」「企業説明会の実施」と続いている。

図表 4-38 就職活動支援で望むこと（複数回答）



## 2)-7 学校や北九州市への要望

保護者の意見としては、学生と企業の出会いの機会を増やしたり、職業体験を支援したりして、卒業後の就職への意欲を向上させたいとの要望が多かった。以下はその主な内容である。

- ・北九州市立大学のキャリアセンターは、面倒見がいいと思う。市と大学が一体となって、この北九州をよくしていると思う。そういう風になると大学に人が集まり、市全体に活気が満ちてくると思う。
- ・1年の頃から職業体験等、就職に対する心構えができるような場をどんどん設けてほしい。
- ・就職する前に企業との体験を沢山するために交流の場を設けてほしい。
- ・希望する職種に就いているOB、OGとの交流の場を設けてほしい。
- ・北九州市は世界に「水」事業に取り組んだり、電機系会社と介護ロボットを共同開発する等、先を見すえたことを行っている。それに学術学園都市（ひびきの）が関わっていることは大変喜ばしいことだと考えている。日本は地震国でもあり、世界的に異常な災害が起きているので、それに対応できる電力・食の確保等を考慮したことを今後期待している。
- ・子供が大学で学んだ知識を北九州や地域でどう活かして働いていけるのか。実際に地域で働いている先輩がどのように発揮しているのか、交流の場を是非とも提供して頂きたい。
- ・市には、就職に対する国家資格の取得への推進事業を期待する。大学には、専門性の高い即戦力になる実践的授業を行ってほしい。
- ・地元で働けるのが一番であり、若い人材は大切だと思うので、大学卒業後に地元に残れるように、企業と交流できる場があるといいと思う。
- ・企業といっても子供達には漠然としていると思う。「世界はすべての仕事でつながっている」と広告

されるように、多くの企業情報が得られることができれば良いと思う。

- ・女性が一生を通して安心して働ける企業を教えてください。OB（女性）と交流の機会を持ちたい。
- ・山口県、福岡県内の企業との交流をもっと積極的に取り組んでほしい。就職した先輩との交流の場を持ってほしい。情報提供をもっと活発にしてほしい。
- ・学校の先輩の体験談（本音）を聞く機会を設けてほしい。
- ・社会人としての職場マナーの講習会を実施してほしい。
- ・企業の方々との交流会を持ってほしい。
- ・企業が求める人材、企業で活躍できるような人材になれるように指導して頂きたい。専門を活かせるようにどんどん企業の職場体験をさせてほしい。
- ・俗にブラック企業と呼ばれるような企業が参入しないように情報公開等をしっかり行っていただき、安心して就職活動できるようにしてほしい。
- ・企業のトップや社員との交流の場を設けてほしい。体験の場を提供してほしい。若者や子供たちが北九州に住み続けたいと思う市にしてほしい。
- ・ハローワークや求人誌に求人募集を出すことを検討している中小企業や個人業なども幅広く紹介して、少しでも自分にあった企業を見つけられるようにほしい。

## 2 北九州市の学生に対するヒアリング調査

### (1) 麻生情報ビジネス専門学校

#### ■学校概要：

- ・学校名：学校法人麻生塾 麻生情報ビジネス専門学校 北九州校
- ・所在地：〒802-0001 北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号
- ・連絡先：TEL 0120-292-011 / <http://www.asojuku.ac.jp/abkc/>
- ・創立：昭和14(1939)年
- ・定員：200名(北九州校計)
- ・職員数：約440名(グループ計)
- ・学科：システムエンジニア科、コンピュータシステム科、ゲームクリエイタ科、オフィスビジネス科、CGクリエイタ科、CGデザイン科(北九州校)

#### ■取材内容：

##### 1. 学生の自己紹介

- ・IT分野ではHTMLに興味がある。勉強する中で自身の実力不足を感じ、就職はIT系をやめて製造系を目指すことを決めた。
- ・HTMLに興味がある。就職はWebデザイナー等、デザイン志向の強い分野を希望。
- ・プログラミング、データベース、SQL等に興味がある。就職は、メーカーのシステム部門か、いわゆるIT系企業かで迷っている。メーカーの場合は特定企業に狙いを定めている。
- ・プログラミングに興味がある。就職のイメージはまだ湧かないが、プログラミングの技術を活かせるところを考えている。先生からは博多の企業の情報が入っている。
- ・プログラミングに興味がある。就職のイメージはまだ湧かず、プログラミングの技術を活かすかどうかはまだ決まっていない。IT系がメインだが、他も少し考えている。
- ・HTMLに興味がある。就職はまだ具体的に考えていないが、IT系に限らず、一般事務(内勤)を希望している。
- ・プログラミング、SQLに興味がある。職種としてはプログラマーを目指しているが、具体的な就職先はまだ考えていない。
- ・プログラミングに興味がある。就職は、システムエンジニア(SE)又はプログラマー、分野としてはスマートフォンのアプリケーションに興味がある。アイデアが成否を左右する業界は怖い、それだけにやりがいもある。将来的には独立志向もある。
- ・プログラミングに興味がある。就職について、具体的なイメージはまだない。

##### 2. 地元志向の有無と強さ

- ・まず、志望理由として[1]業務内容[2]企業規模[3]立地地域、を提示して各自の優先順位を尋ねたところ、9名中6名が[1]を1位に挙げた。[3]を1位に挙げたのが3名、[2]は0であった。

優先順位	人数
[1]業務内容を1位に挙げた者	6名

[2] 企業規模を1位に挙げた者	0名	(計9名)
[3] 立地地域を1位に挙げた者	3名	

- ・業務内容を1位に挙げた理由としては、以下のコメントがあった。
  - ・学校で学んだシステムやプログラミングの技術を使って社会貢献がしたい
  - ・キャリアアップのために、まずは業務を覚えたい
- ・立地地域を1位に挙げた理由としては、以下のコメントがあった。
  - ・地元の友人との交流を維持したい
  - ・親元から通いたい

なお「地元」として想定する地域については「県内」のほか、「市内を第一に考えるが、無理なら県内」という声もあった。

- ・これらの結果から、高専と同様、専門学校においても、就職先の条件として「業務内容」の優先順位が高いことが分かる。ただし「立地地域」は高専と比較すると優先度合いが高くなっている。
- ・次に、Uターンの可能性について、就職先企業で北九州（九州地区）に支社、部署等ができた場合を想定して尋ねたところ、次のような回答があった。

Uターンの可能性	人数	(計9名)
Uターンの可能性がある	9名	
Uターンの可能性はない	0名	

まだ就職が具体化しない年次の生徒であるため、イメージが湧きにくい面はあったと思われるが、高専に比べるとUターン志向は強かった。

- ・父母との関係について尋ねたところ、以下のような回答であった。

両親の意見	人数	(計9名)
就職については自由にしてよい	6名	
できれば地元に残ってほしい	2名	
規模の大きな会社に就職してほしい	1名	

この結果が専門学校の特性か、年次が低いためかは直ちに判断できないが、高専において父母の影響がほぼなかったのに比べると、専門学校においては多少の影響があるといえそうである。

### 3. 就職に対するアプローチ

- ・どのように就職活動を進めていくか、という質問に対しては、以下のような回答があった。
  - ・まず先生に相談する。
  - ・ネット（Webサイト、ブログ）で情報収集・企業研究を進める／進めている（複数）。
  - ・自分でネットを調べた上で、先生が知っている会社なら、先生に聞く。

- ・OBによる学校訪問は、先生が個人的な人脈で依頼している。
- ・ほぼ全員が、何らかの形で「先生に相談する」と回答しており、専門学校においては教員が与える影響の度合いが相当程度に高いことがうかがえる。

#### 4. 就職に関する不安・要望

- ・就職に関する不安や、学校・自治体に対する要望を尋ねたところ、以下のような回答があった。
  - ・新聞には大手企業しか載っていないし、リクナビを見てもいまひとつ分からない。もっと情報がほしい。
  - ・要望は思いつかない。
  - ・経営者と話す機会、技術者と話す機会、インターンシップ（いずれも質問者から提示）があれば嬉しい。特に、地元企業にはそうした機会を作ってほしい。
  - ・働いている人（OBなど）の声が聞きたい（複数）。
  - ・企業情報はあっても、自分が志望するシステム部門の情報が不足している。
  - ・東京の会社の場合、説明会に出席するにも東京まで行かねばならず、交通費等の負担が大きい。現在も一部あるが、もっと多くの企業に地元で説明会を開催してほしい。
  - ・ネットには実績は載っているが、業務内容や社内の雰囲気に関する情報は少ない（特にWeb系企業）。
  - ・インターン先を探しているが、東京ばかりで県内では少ない（特にWeb系）。もっと県内で見つかるとうい（東京の企業、地元企業とも）。
  - ・ネットでの情報では、職種等の説明があいまい。現在は先生に相談しているが、経営者と話ができる機会があればよい。

これらのコメントから、学生は企業に関する個別具体的な情報の不足を感じていること、それを補うためにOBや経営者等、内情をよく知る人との対話（インターンシップも含む）を希望していることが分かる。自治体の視点から考えると、地元における企業説明会の拡充等、学生が企業情報に接することのできる機会を増やす施策が重要といえそうである。また、併せてインターンシップの実現・拡充に向けたサポート等も効果的と考えられる。

## (2) 北九州工業高等専門学校

### ■学校概要：

- ・学校名：独立行政法人 国立高等専門学校機構 北九州工業高等専門学校
- ・所在地：〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号
- ・連絡先：TEL 093-964-7200（代表）／URL <http://www.kct.ac.jp/>
- ・開校：昭和40（1965）年4月
- ・定員：学科200名、専攻科20名
- ・職員数：123名
- ・学科：機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質化学工学科  
専攻科（生産工学専攻、制御工学専攻、物質化学工学専攻）

### ■取材内容：

#### 1. 学生の就職先（自己紹介）

- ・入学前からロボットが好きで、高専での勉強を経て、メカトロニクス系企業（神奈川県）に内定。
- ・理系学科が好きで高専に入学、後に海外に興味を持つようになり、海外進出を果たしている交通インフラ系企業（埼玉県）に内定。
- ・ものづくりが好きで高専に入学したが、後にシステムやITに興味を持ち、工場勤務に抵抗があったこともあり（女性）、先生の紹介でシステム系企業（東京都）に内定。
- ・コンピュータやプログラムが好きで高専に入学、IT系の勉強をした後、大手ITメーカー系の企業（関東圏）に内定。
- ・電気に興味があり、高専では電気電子工学科を選んだが、情報の授業が楽しくて興味を持ち、IT系企業（東京都）に内定。
- ・電気、制御に興味があり、進学も検討したが早く社会に出たいと考え、データセンターやクラウドを手がける企業（東京都）に内定。就職に当たり分野にこだわりはなく、企業の内容・雰囲気を見て志望。同社は北九州進出の計画があり、それが就職の決め手となった。
- ・身近な携帯電話の仕組みに興味を持ち高専に入学、情報の授業に興味を持ち、大手ITメーカー系の企業（神奈川県）に内定。プログラムは得意でないがネットワーク系に興味があり、そうした指向に合う職種に就くと決まっている同社を選択。
- ・勉強を突き詰めたくて高専に入学、アルゴリズム等の知識を活かして社会貢献をしたいと思い、IT系の企業（東京都／大阪府）に内定。仕事はプログラミングで、学校の勉強から直結している。
- ・プログラミングが好きで高専に入学、ゲーム系企業は労働条件が心配なため、Web制作会社（東京都）を選択し内定。同社は北九州支社の開設予定があり、自分は就業場所にさほどこだわりはないが、北九州ならそれにこしたことはないと考えた。【メンバーズ】
- ・文化祭が楽しかったので、学科もよく分からないまま高専に入学、後にパソコンが目に見えて便利になるのを実感して興味を持ち、IT系企業（東京都）に内定。情報系企業は大企業のイメージが強いが、インターンシップに参加し、現場を知ったことでやりたいと思い志望。【メンバーズ】

- ・(専攻科生) プログラムや制御に興味があり勉強したが、学科卒業後は就職ビジョンが見えず専攻科への進学を選択。母親の影響で福祉系に興味を持ち、同分野に工学・技術で貢献したいと考え、先生の紹介もあってメディカル系企業(東京都)に内定。

## 2. 地元志向の有無と強さ

- ・まず、志望理由として [1] 業務内容 [2] 企業規模 [3] 立地地域、を提示して各自の優先順位を尋ねたところ、11名中11名が [1] を1位に挙げた。2位は11名中6名が [3]、5名が [2] であった。

優先順位	人数
[1] 業務内容 → [3] 立地地域 → [2] 企業規模	6名
[1] 業務内容 → [2] 企業規模 → [3] 立地地域	5名

(計11名)

- ・次に、仮に「同じ業務内容、同じ企業規模」の就職先があった場合、立地は [1] 北九州(九州地区)がよい [2] 東京がよい [3] どちらでもよい、を提示して各自の優先順位を尋ねたところ、11名中6名が [1]、1名が [2]、4名が [3] を選択した。

就職先の立地(他の条件が同じ場合)	人数
[1] 北九州(九州地区)がよい	6名
[2] 東京がよい	1名
[3] どちらでもよい	4名

(計11名)

- ・これらの結果から、専門的な内容を学ぶという高専の性格上、就職先の条件として「業務内容」は譲れないこと、また「立地条件」は判断材料ではないことが見てとれる。なお、立地条件等に関しては以下のコメントがあった。

- ・地元で希望に合う企業を探したが、見つからなかった(メディカル系)
- ・親に「東京に就職する」と伝えたら、少し驚かれた(女性)

- ・次に、Uターンの可能性について、就職先企業で北九州(九州地区)に支社、部署等ができた場合を想定して尋ねたところ、次のような回答があった。

Uターンの可能性	人数
既に就職先に北九州進出の予定がある	2名
Uターンの可能性がある	4名
Uターンの可能性はない	5名

(計11名)

就職先の条件として「立地条件」は判断材料ではないが、将来的なUターン志向は必ずしもないわけではない。「東京で何年か働いた後、福岡に帰りたい(女性)」というコメントもあった。

高専においてはキャリア志向は強いものの、機会が与えられれば、いずれ何らかの形で地域に貢献したいと考える学生は少なくないと考えられる。

なお、就職に当たり両親に相談した学生は11名中3名であったが、親から何らかの意見を受けたという学生は11名中0名であった。「親は情報系の勉強内容や企業については分からないので、そもそも口出しできないのではないか」というコメントもあった。したがって、今回の学生については、就職に当たって両親からの影響はほぼないものと考えられる。

### 3. 就職の経緯

- ・内定先を見つけた経緯を尋ねたところ、以下のような回答があった。

内定先をどこで見つけたか	人数
先生の紹介	6名
先生にもらった資料を基に自分でアプローチ	2名
学校で開催された企業説明会	3名

(計 11 名)

このことから、高専においては就職支援が充実していることが分かる。付随して以下のコメントがあった。

- ・OBが学校を訪問し、企業を紹介・説明してくれたことが決め手となった。企業の担当者だと表面的な内容しか聞けないが、OBなら仕事の詳細や込み入った話も聞けるので、入社後にどんな仕事をするのかが明確に見えた。OBと話す機会はもっと多い方がよいと思う。
- ・IT企業の中で、ネット系（Webデザイン、SNS等）にも興味があったが募集がなく、またベンチャー企業は競争率も高く不安だった（SIer内定者）。
- ・自分で調べておもしろそうだと感じた企業からは、学校に募集が来ていなかった。
- ・自分はネット系には興味がないが、友人には志望者もいるので、その方面からの募集もあった方がよい。
- ・ほとんどの人が2~3社しか見ていない。例えば、動画による情報提供などがあれば、学生にもっと雰囲気伝わり、志望者も増えるのではないか。

### 4. インターンシップについて

- ・インターンシップについて尋ねたところ、次のような回答があった。
  - ・夏休みに2週間、インターンシップを行った。実際の商品のプログラムについて、見て、改良して、作成するという過程を経験させてもらい、働く感覚や会社の雰囲気がつかめた。
  - ・自分の志向・志望とは関係ない業界でインターンシップを行った。いい会社だったが、やはり自分には合わないと確認できた。就職先を判断する上では、よかったと思う。

- ・実習を通じ、入社しないと分からない知識を得ることができた。社員の暖かさ、寮生活の詳細なども知ることができ、行ってよかったと実感している。後輩にも勧めている。
- ・インターンシップは、就職先を決める上で大切だと思う。
- ・インターン先にそのまま就職した学生もいる（知る範囲ではクラスで2名）。
- ・1人1社ではなく、2~3社で行えると、いろいろな企業を見られてよいと思う。
- ・よい制度だと思うし、学校の掲示板には多数掲載されているが、それでも競争率が高すぎて、なかなか希望の企業には行くことができない。

これらのコメントから、インターンシップについては、自治体・学校が先頭に立ち、企業と学生のコミュニケーションをとる場の拡充を図るべきであると考えられる。

また、インターンシップに関連するコメントとして「メンバーズ社の勉強会で専門学校生と一緒にになったが、彼らの方がプログラムを組むなどの実技では上だと感じた。高専では技術の基礎を中心に勉強するので、実務に弱い印象がある」というものがあった。ただしこれは、一概に知識や技術の優劣を示すものではなく、各学校の特性を反映した感想と考えられる。

### (3) 北九州市立大学

#### ■学校概要：

- ・学校名：公立大学法人 北九州市立大学
- ・所在地：〒802-8577 北九州市小倉南区北方4丁目2番1号
- ・連絡先：TEL 093-964-4004 / <http://www.kitakyu-u.ac.jp/>
- ・創立：昭和21(1946)年
- ・定員：6,100名(学部)
- ・職員数：195名(学部)
- ・学部：外国語学部、経済学部、文学部、法学部、国際環境工学部、地域創生学群

#### ■取材内容：

##### 1. 学生の自己紹介(就職に対する考え方)

- ・就職は、地元(静岡県)に戻って公務員になることを考えている。現在、公務員講座を受講するなどして準備している。
- ・大学院(他大学)への進学を予定している。その後は、食品業界で企画開発などに携わりたい。
- ・就職先はまだ絞っていないが、営業関係等で自分の力を発揮したい。
- ・就職は芸能関係を考えている。それを見据えて現在、フィルムコミッションでボランティアスタッフをしている。就職活動は人的ネットワークが重要と思われ、大学はあまり関係ない。
- ・就職先は金融関係のほか、メーカーも視野に入れている。場所は福岡市内を考えている。
- ・就職先に関して具体的なイメージはまだないが、プランナーなど広告業に興味がある。インターンシップへの参加を考えており、ネットで情報収集を始めている。
- ・商売が好きなので、形のあるものを売る仕事に就きたい。将来的な可能性の一つとしては独立も考えていえるが、就職先がよい会社ならそのままでも構わない。現在は、ネット上で興味のある会社を広く浅く調べている。
- ・就職先としては、ブライダル、旅行などのホスピタリティ業界や、人材業界に興味を持っている。
- ・リーダーとしてチームをまとめることが好き。就職先は、若手でも意見の言えるフラットな組織を持つ企業がよい。販促等、自分の意見で売上が伸びるのが見えるような仕事がしたい。

##### 2. 地元志向の有無と強さ

- ・まず、志望理由として [1] 業務内容 [2] 企業規模 [3] 立地地域、を提示して各自の優先順位を尋ねたところ、9名中5名が [1] を1位に挙げた。[3] を1位に挙げ

たのが4名（ただし、うち1名は目指す地域として「東京」を挙げた）、[2]は0であった。

なお、高専・専門学校の場合と異なり、福岡県出身者は9名中1名（北九州市）であり、他は九州各県のほか、山口県、岡山県、愛媛県、静岡県と広範囲に渡っていることを付記しておく。

優先順位	人数
[1] 業務内容を1位に挙げた者	5名
[2] 企業規模を1位に挙げた者	0名
[3] 立地地域を1位に挙げた者	4名

(計9名)

- ・業務内容を1位に挙げた理由であるが、高専・専門学校と異なり、具体的な技術・技能の習得を目的とする学部学科ではないためか、明確なコメントは見られなかった。
- ・立地地域を1位に挙げた理由としては、以下のコメントがあった。
  - ・大学は遠地に来たが、長男ということもあり、実家の近くで就職したい。両親もそれを望んでいると思う
  - ・住みやすさや人間関係のよさから、地元（宮崎）で就職したい。都会へ出るなら福岡市を考えている
  - ・目指す業種が芸能関係なので、就職先としては東京以外に選択肢がなさそうである
- ・これらの結果から、大学においても、就職先の条件として「業務内容」の優先順位が高いことが分かる。「立地地域」の優先度合いは高専と同等である。ただし、先述のとおり「業務内容」の中身についての具体性は、高専・専門学校に比べると低い。
- ・次に、Uターンの可能性について、就職先企業で地元（出身地）に支社、部署等ができた場合を想定して尋ねたところ、次のような回答があった。

Uターンの可能性	人数
Uターンの可能性がある	3名
Uターンの可能性はない	6名

(計9名)

この結果は、前の設問で [3] 立地地域を選択した者のうち、目指す地域に「東京」を挙げた者を除いた数字であり、就職先の選択における地元志向とほぼ同義であると考えられる。全般に、Uターン志向はさほど強くない。ただし、本設問に関しても、高専・専門学校の場合に比べ「Uターン」に関する具体的なイメージ（就職後のキャ

リアアップや、両親の高齢化等の問題)をまだ抱けていない印象が強かった。なお、大学生ということもあってか、父母の直接的な影響はあまり大きくないといえそうな印象であった。

### ●北九州市と福岡市の違い

- ・地元志向の話を書く中で、学生にとって北九州市（小倉）と福岡市（天神）はどのように違って見えているのか、という話題が出た。興味深い点もあると考えられるので、当該コメントをまとめておく。
  - ・「買い物に行くなら」という問いには、全員が「福岡市」と回答した。
    - ・交通費を使っても天神に行く
    - ・魅力的な店の数が圧倒的に多いから
    - ・小倉で買うと友人とかぶってしまうから（選択肢が少ない）
  - ・同じく「買い物に行くなら」という問いで、「福岡市か東京か」という選択肢の場合は、福岡市5名に対し東京4名という回答であった。
  - ・「食事に行くなら」という問いに対しては、次のようなコメントがあった。
    - ・友人と軽く食事に行くなら小倉が便利
    - ・行ってみたい店は天神に多い（テレビによく出る店、人気店）
  - ・「日常生活を送るなら」という問い（住環境、通勤等を想定）に対しては、総じて「北九州市も福岡市も変わらない」という回答であった。
- ・これらの回答から、テレビに代表されるメディアへの露出が多い福岡市は、若者が憧れを抱くようなイメージが確立されている（確立に成功している）と考えられる。ある程度、想定された結果ではあるが、改めてイメージ戦略の重要性を示唆する結果ともいえる。
- ・他に、北九州市出身者（女性）のコメントとして「福岡市の方が都会だと思うし、一度は実家を出てみたいという希望もあるので、就職は福岡市でと考えている。同時に、すぐに帰ってこられる距離感も魅力」というものがあった。

### 3. 就職に対するアプローチ

- ・どのように就職活動を進めていくか、という質問に対しては、以下のような回答があった。
  - ・OB訪問を考えている（3名）
  - ・大学のキャリアセンターを利用する（4名）
  - ・SPI 総合検査やリクナビ等を活用して、個人で進めている
- ・一方で「先生に相談する」という回答はあまりなく、学部・学科・ゼミによって異

なることも考えられるが、今回のヒアリング範囲では、教員が与える影響の度合いはあまり高くないといえる。

#### 4. 就職に関する不安・要望

- ・就職に関する不安や、学校・自治体に対する要望を尋ねたところ、以下のような回答があった。
  - ・現在調べている範囲で見ると、有名企業や、口コミの多い企業しか情報が得られない印象がある。無名でも「いい会社」を取り上げてくれる場があるといい。
  - ・低学年のときから参加できる説明会や、フランクな雰囲気の交流会などがあるとよい。いわゆる説明会は「スーツで黒髪」のイメージが強く参加しにくい。
  - ・実際に働いている人と積極的に交流できる機会が、オープンな形で提供されるとよい。
  - ・企業と交流できる場がほしい。説明会だと質問しにくいので、個人でも質問しやすいような場があれば助かる。
  - ・例えば、一定人数の学生が集まったら、個別に企業と交流できるような場があればよい。「大人数」対「不特定多数の企業」ではなくて「少人数」対「自分たちが興味のある企業」という形が望ましい。
  - ・質問しやすい場、関係づくりをしやすい場を提供してほしい。学生と企業とで意見を言い合うこともしてみたい。
  - ・小倉で就職セミナーを開いてほしい。
  - ・そもそも、北九州の企業をよく知らない。
  - ・インターンやセミナーに参加するために福岡市に行くと、向こうの学生のモチベーションの高さに驚かされる。
  - ・明らかに福岡市の方が得られる情報が多い。経営者との交流会等も、数が全然違う。
  - ・情報の多い福岡市に出向きたいが、回数が重なると交通費もかさむので苦しい。
  - ・交通費などの経済的支援がほしい（遠地も含めて）。

これらのコメントから、学生は高専・専門学校の場合と同様、企業に関する個別具体的な情報の不足を感じていることが分かる。そして、それを補うための場として、低学年のときから参加できる説明会や、通常よりも小規模な、かつ特定の興味を持った企業との対話を望んでいるという傾向が見られる。全体的な特徴としては、専門学校の場合に見られたように「OBや経営者」との「対話」を要望するというよりも、「企業」に対して「情報提供」を要望している印象が強い。

一方、就職関係の情報が福岡に集中している現状は、今回のヒアリングから見て明

らかなようである。そのことが学生のモチベーションにまで影響しているという指摘もある。「小倉で就職セミナーを開いてほしい」「そもそも、北九州の企業をよく知らない」といったコメントは切実あるいは深刻であるが、同時に、自治体が比較的容易に取り組める内容を含んでいるともいえ、今後の支援策を検討する上で参考になると考えられる。

